hohoemi no kai

ほほえみの会

絵手紙のノウハウ「読み聞かせ」に

▲黙々と作業を行う会のメンバー。前身は絵手紙サークル

▲１年に１、２作品を仕上げる

活発な活動を続ける絵本の読み聞かせサークル。それらの取り組みを支えるボランティアサークルがあります。その名は「ほほえみの会(小林久子代表)」。活動は、読み聞かせで使う絵本を拡大すること。小さいものだと読み聞かせの際に、伝わりにくいという声から、活動がスタートし、10年以上続いています。小林代表は、「私たちは元々絵手紙サークルで、文化祭のときに読み聞かせサークルの方に、絵本を大きくできないか相談されたことがきっかけで始めました。ボケ防止のためにやっていることが、子どもにも喜ばれるならいいですよね」と話します。メンバーは、9人で、月に1回活動を行っており、作業は、絵本の拡大コピーをカーボン紙で画用紙に写し、絵の具で丁寧に色を入れていきます。年に1、2作品を仕上げ、読み聞かせサークルに納品しています。

会に相談を持ちかけた品田靖恵さんは、「大勢の前で読み聞かせを行う機会が増え、大きな絵本ができないかと、絵手紙サークルに相談しました。私たちは読む方に専念できるし、会にとっては生涯学習の場になる。適材適所の良い関係が築けていると思います」と話します。

黙々と作業を行う会のメンバー。喜ぶ子どもたちの顔を思い浮かべ、絵筆の先を走らせていました。